

<令和6年度版>

新人教育プログラム要旨～新人用～

●育成目標

- ・主体的に行動する職員の育成
- ・患者を考える職員の育成
- ・思いやりをもつ職員の育成

●到達目標

- ①社会人の自覚をもち責任をもって行動をとる。
 - ②対象者や職員から信頼を得ることができる
 - ③一般業務を正確に行うことができる
 - ④基本的な患者業務を行うことができる
 - ⑤対象者の目標設定と計画立案を行うことができる。
 - ⑥代表的疾患の基礎知識をもち支援することができる
 - ⑦多職種連携の意識し、積極的にコミュニケーションをとることができる
- ※新人職員は、1年間で「到達目標」の達成を目指す。

●指導者について：グループ全体で分担して新人職員をサポートする。

- ・リーダー⇒「不安解消を含めた全般的フォロー」 「専門職としての知識や計画立案の指導」
※プリセプター役とする。
- ・サポーター ⇒「一般的な業務の指導」 「患者業務の具体的指導」
※各グループの職員が適宜担当。

●新人の業務について

- 新人研修期間：「1年間」を研修期間の目安とする。
独り立ち：「業務に慣れ次第」患者業務独り立ちの目安とする。

●資料について

① 新人教育マニュアル（各種マニュアル・資料）

② デイリーシート

- ・目的：1日のスケジュール管理、自己学習の機会
- ・使用方法：項目に沿って内容は自由記載。指導者へ見せ、適宜指導を受ける。
一日の振り返りや予定の立て方など各々使いやすいように使用する。

③ 業務リスト

- ・目的：獲得すべき基本的な業務・知識・技術を明確にする。
※「到達目標」各項目に対応する課題としている。
- ・使用方法：各項目について、経験したかどうかを確認し、指導ツールとして使用する。
使用の頻度などについては指導者と相談しながら決める。

●他部門見学について（未定）

- 4月・5月頃に、リハビリテーション科他部門の見学を行う。
詳細は、追って報告する。

●新人の業務について

★各月の「重要事項」を重点的に行えるようにする。

4月

重要事項

- 職場のルールや基本的な業務の流れを理解する。
- 新人同士で密に情報共有や意見交換を行う。
- 報告・連絡・相談を徹底して行う

- ・各種研修（法人研修、リハビリ他部門見学 等）
- ・患者業務・・・**指導者との共同介入**

4月 指導者の担当患者「2～3人」をサブ担当として対応。**必ず指導者と共同介入。**
指導のもと「カルテ記載、計画書、その他書類作成」開始。**記載者名は「指導者」。**

5・6月

重要事項

- 患者に適切な態度や言葉遣いを用いる。
- 患者の安全面に配慮して訓練を行う。
- 患者に訓練目的を説明した上で訓練を行う。
- 自己学習の方法や習慣を身に付ける。
- 診療科別カンファレンス等に参加し、報告する。
- 一日の業務を17：15までに終える。

- ・患者業務・・・**指導者との共同介入**

5月 免許取得。 **6月** 共同介入継続するが、リーダー・サポーター判断で調整。

7・8・9月

重要事項

- スケジュール管理し、就業時間内で業務終了する。
- カルテ記載、計画書や書類の作成が適切に行える。
- 担当患者や家族の希望、生活背景を把握している。
- 担当患者の病態や病棟ADLを把握している。
- 担当患者の目標設定、計画立案を徹底して行う。
- 指導者へ、担当患者の現状や目標を口頭で説明する。
- 担当患者について他職種と情報交換をする。

- ・患者業務 → 指導者との患者共同介入の機会を調整。

10・11・12月

重要事項

- 報告・連絡・相談を継続し、主体的に患者業務を行う。
- 担当患者の生活を見据えた目標をたて、訓練や指導を行う。
- 患者の家族に対して、介入状況を分かりやすい言葉で説明する。（計画書説明やリハビリ見学）
- 医師、看護師、MSW等に対して、必要に応じた内容を情報提供する。
- リハビリテーション科内で自身がちょっとしたことでも協力できることを見つけ行動する。

- ・患者業務 → 患者共同介入の機会を可能範囲で確保。

翌年1・2・3月

- ・患者業務 → 指導者との共同介入を継続するが、適宜自主的に実施。